

# Mother つうしん

2017年10月発行  
No.34号

MOTHERとは、Movement Organ Transplant Hyogo Emergency Rescueの頭文字をとったもので、『移植医療の理解促進と、臓器提供を待つ患者の願いを実現するため』に運動をすすめています。

## 臓器移植法施行20周年を迎え

### 今こそ臓器提供の低迷を打破！

移植医療専門家、救急医、有識者、  
ドナー家族、移植待機者、  
移植者など含め議論を！

本年、わが国は臓器移植法施行20年目を迎えています。1997年の法整備によってわが国では長く閉ざされていた脳死からの臓器移植が可能となり、2010年には同法が改正され、本人の意思が不明な場合には家族の承諾で提供が可能となりました。

しかし、現実を見ますと移植待機者が13,896人(本年8月末現在)に対し、死後の臓器提供総件数が年間80~100件(昨年実績では脳死下64例、心停止下32例)と低迷し、依然として通常の医療として定着しておりません。(図表参照)

斯様なわが国の臓器提供低迷の現状について、垣添忠生先生(日本対がん協会会長)は読売新聞(9月24日朝刊)の「地球を読む」欄に寄稿され、わが国の移植医療の現状につき、以下の様に示唆に富んだ提案をされています。先生の寄稿の中には、共感する箇所が随所に見うけられ敬意を表したい。

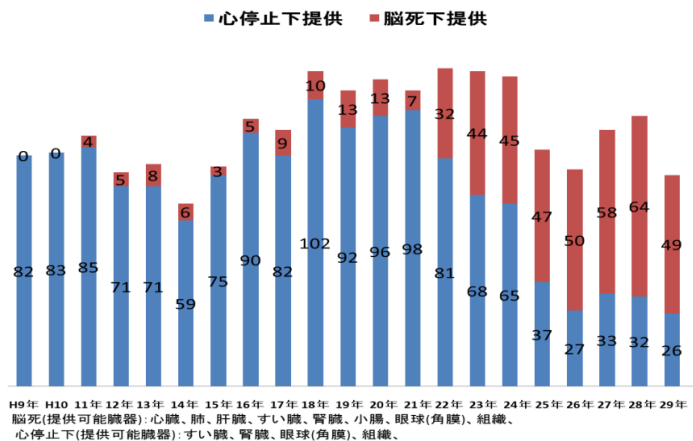
『日本の移植技術レベルは極めて高いのに、臓器提供が極めて少ない。ドナーが現れずに亡くなった人は5,753人(20年間の累計)にのぼるなど移植を待つ登録した患者たちの約3分の1の方が移植を受けずに亡くなっている。実は、脳死での臓器提供に理解を示す国民は少なくない。内閣府の臓器移植に関する意識調査(2013年)では、「自分が脳死になったら臓器を提供したい」と答えた人の割合は43%と高かった。(参考：ドイツ46%、イタリア45%など：瓜生原葉子著、「移植の組織インベション」より引用)

2015年6月末現在、脳死での臓器提供が可能とみられる医療機関は862施設に限られ、「体制が整っていない」とするとする施設が、厚労省の調べでは、全体の51%にもものぼる。

このような事態を、どのようにしたら解決できるのだろうか。私が専門とするがん医療との対比は、問題解決への思考になる。がん治療の水準向上などの政策推進を定める「がん対策基本法」が2007年4月に施行され、厚労省は「がん対策推進協議会」を設けた。委員にはがん医療の専門家や有識者のみならず、がん患者、家族、遺族の代表も加わった。・・・中略・・・、基本法が施行されて10年。400を超えるがん診療連携拠点病院が指定されているが、拠点病院には年間2000万円の補助金がつく。この補助金で病院はがん相談員や、必要な診療体制の強化を図っている。つまり、がん拠点病院には、診療の質向上を促すインセンティブ(動機付け)が働く。

がん医療の例にならい、臓器移植法を再度、改正してはどうだろう。ドナー家族、移植経験者も委員に含めた臓器移植協議会を作り、基本計画を策定する。移植拠点病院は手挙げ方式で決め、指定された補助金が支給される。補助金で病院は、患者や家族らに説明する移植コーディネーターを採用するなど体制を整える。臓器提供病院には、ドナー家族への心理的サポートの充実などを求めて支援を拡充する。臓器移植は、亡くなった人が自分の臓器を他者に与えることで他者の生命を救い、新たな人生を与える崇高な行為である。わが国の移植医療が抜本的に変わり、困っている人を少しでも減らすことを強く望む。」など移植医療に理解が深い提案もされていました。

脳死下・心停止下での臓器提供件数の推移  
H9年～H29年(H29/8月末日現在)



兵庫県内では、(公財)兵庫県健康財団、兵庫腎疾患対策協会、NPO法人兵庫県腎友会、NPO法人はあとネット兵庫、兵庫腎移植の会、提供または移植に関わる医療者、県移植 Co.臓器移植施設(神戸大学医学部付属病院、兵庫医科大学付属病院、県立西宮病院)など様々な組織が啓発活動を実施しています。今後の更なる移植医療の普及には、各組織の連携と情報の共有化、活動内容の共有化・効率化を図ることが必要と考えます。その為には、①兵庫県移植医療関係機関の連絡会議の開催、②提供施設と移植施設との更なる交流と情報交換、③臓器移植に関する情報の共有に基づいた広報活動について、ご理解と施策へのご支援を切にお願い申し上げます。(文責、川瀬)

## 活動報告

第9回 臓器移植を考える市民公開講座  
2017. 4. 30 (日)、

講師：野島 道生先生(兵庫医科大学  
泌尿器科臨床教授、腎移植センター長)

講演：『多くの人に移植のことを伝えたい』  
～つながる・ひろがる臓器提供の意思～

会場：神戸市勤労会館 2F、  
多目的ホール、一般参加 65 名、

今回は野島道生先生がテーマ『多くの人に移植のことを伝えたい』～つながる・広がる臓器提供の意思～ で、先生が30年にわたり情熱をもって移植医療に携わってこられた様々な経験から、最初に「知ることから始まる」と強調された。「移植医療は、誰かから臓器を頂かないと成り立たない治療です。だから、大切な臓器を頂くのに、正しい内容を知って理解して頂くことが何よりも大切」と説かれました。また、新入生から「(臓器)提供を承諾すると治療が手控えられるのではないか」との質問には、愕然としたが、これが一般的な移植医療に対する認識だと理解できるので、はっきり「それは、違うんです」と説明して正しい情報を伝えていくことが大切です、と強調された。

情報の重要さに関して、兵庫医科大学の臓器提供施設の主治医から、「レシピエントの方が元気になられたのかどうか全く伝わってこない」との声を聞き、移植医から血液検査のデータではなく、レシピエントの生の声をできるだけ早く伝えることが大事だと思った。締めくくりに、正確な情報を伝えるのは、知っている人にしか出来ないことで、それが自分の使命だと述べられた。

第28回 こうべ福祉・健康フェアに参加  
2017. 10. 1(日)、しあわせの村、

兵庫腎移植の会との共催、参加者 9 名(協議会から 2 名、兵庫腎移植の会から 2 名、県職員 3 名、県移植 Co.1 名、ボランティア 1 名)

当日は、天気にも恵まれ、主催者((公財)こうべ市民福祉振興協会)によると来場者数は、17,000 人(昨年比 2,000 人増)とのことで盛況でした。

私たちのブースでは昨年、お子さん向けの輪投げ競技を提供しましたが、来場者に好評でしたので、今年の私たちのブースは、特別に間口 5.4m と広く、奥行き 2.7m、3 方幕にして頂きました。その広いブースで私たちは、①「臓器提供意思表示カード」を会場内で配布、②先ず、参加者の方たちに「移植クイズに挑戦！」をトライしてもらいました。③お子さん向けに「輪投げ競技」を提供し





ました。今年も期待通り、人気がありましたが、新たに、県の職員(3名)によるマスコット「ハバタン」の参加で私たちのブースは最後まで盛り上がりました。

**【出前授業】① 2017. 5. 24(水)、  
園田学園 女子大学(成人保健)、生徒 68名、**

出前授業の講師は高見敬一君と川瀬の2人が担当。高見君は「自らの人工透析 25年の生活と腎臓移植体験」について、移植前の厳しい状況と移植後の劇的な変化、活動的な生活をしている現在とその喜びについて話し、ドナーへの感謝の思いを学生たちに語りかけました。

川瀬からは「わが国の移植の現状と課題」についてその概略を話しました。受講した生徒のY.Oさんは感想文の中で、『前文 ~省略~ 私は、数年前、私は「臓器提供意思表示カード」に登録(署名)した。万が一脳死になった場合、困っている人がいたら、私の臓器を提供することで助けてあげたいと思ったから。そのことを家族に相談したところ、「自分で決めなさい」「(自分の臓器が)他の人の中で生き続けていると思えるから反対はしない」と言ってくれたので、登録(署名)しようと思った。今回、わが国の臓器移植の現状を知ることができたが、今後、もっと移植や透析についても学びたいと思った。』と学生と一緒に熱心に最後まで考えてくれました。



**【出前授業】② 2017. 6. 23(金) 大阪ユニバーサルシティ・ロータリーC. 『卓話』**

**出席 35名、ANA クラウンホテル大阪、テーマ：「臓器移植法施行 20年を迎えて」講師：川瀬 喬**

今回、いつもチャリティゴルフでお世話になっている方の紹介で、初めて、ロータリーC.の「卓話」の機会に上記のテーマで参加させて頂いた。

その甲斐あって、今年の10月29日のチャリティゴルフには2組(8名)の会員の方が参加の申入れを頂き、ボランティアにも参加したいとの申し入れを頂きました。

**ドナー慰霊祭 に出席、2017. 5. 28(日)**

NPO 日本移植者協議会 東海支部主催、名古屋市 覚王山「日泰寺」にて、一般参加：190名、ドナー家族 11名が参加、日本移植者協議会東海支部主催、本年度で17回目を迎え、日泰寺において開催された。挨拶で、いのちの贈りものを頂いた移植患者からは、ドナーとドナーファミリーの方々に素直に感謝の気持ちを伝え、今、共に生き、生かされていることを実感している旨、述べた。

出席した多数の移植者たちは、ドナー・ファミリーの方々とのおきずなが一層深まるようにと祈っている様に感じました。

**2017. 5. 21(日)**

**第47回こべまつりに参加、  
場所：東遊園地、**

参加者 8名(学生ボランティア 5名(兵庫医療大生・神戸山手大)県移植コーディネーター1名、県職員 1名)、協議会 1名、



**兵庫県臓器移植推進協議会**



初めに、ポアンティア全員を対象に①移植クイズ 10 問をやってもらい、会場内で「意思表示カード」の配布と②『輪投げ』を子供向けに提供。学生たちは 2 班(①と②)に分かれ、終了時の午後 2 時半まで全員参加でやってくれました。古くて新しい『輪投げ』が以外と子供たちには新鮮な印象を与えた様で、会場は最後まで親子づれで賑わうことが出来ました。

## 私の移植体験

(寄稿)「私の移植体験記」

戸川裕加子さん(兵庫腎移植の会)

知らない方から大切な臓器をいただいてから 16 年が経ちました。移植してからは、入院することなく順調に過ごしています。ドナーと、そのご家族に感謝の日々です。

腎臓病のネフローゼと診断されたのは、9 歳の時でした。今から 40 年以上前のことですから、腎臓病の治療方法も手探りだったように思います。一度入院すれば 1 年以上というのが当たり前でした。多感な時期に入退院を繰り返していましたが、病院の院内学級で学ぶことができたことで、今の生きる力になっているように思います。

高校、専門学校では順調に過ごし、就職してから数年経った頃から血圧が異常に高くなりました。通院しながら薬を合わせてもらってはいましたが、結婚して 3 年ほど経ったころ、主人の転勤で福岡に行くことになりました。今までお世話になっていた主治医から「あと 3 年もすれば透析になる可能性が高いです」と言われていました。

九州大学病院でお世話になることになり、ゆっくりとデータが悪化し、食欲不振とどうしようもない身体のだるさが増してきました。福岡での 3 年目に予想通り透析になりました。腎臓病とは長く付き合っているのに、透析のことは調べることもせず、「透析で寝ている間にトイレに行きたくなったらどうするの？」なんて、間抜けた質問をする始末でした。

透析が落ち着いてきたころ、脳死による臓器移植が初めて行われたというニュースが映し出されていて、その頃から移植に関心を持ち始めました。臓器移植ネットワークに登録してから 3 年も経たない 2001 年 5 月、献腎移植の電話がかかってきました。福岡赤十字病院の先生からでした。手術直後に尿が出始め、順調でしたが、ステロイド薬による副作用で、一時的に糖尿病になりました。しかし、同病院の糖尿病外来は厳しいことが有名で、強制的にインスリン注射を打つことにより、1 年後には糖尿から卒業することができました。

腎移植をしてから 1 年も経たないうちに関西に戻ることになり、県立西宮病院でお世話になっています。その後は帯状疱疹や膀胱炎などになりましたが、その他の病気はありません。有難いことです。最近インターネットでも移植に関する情報は満載ですが、患者会では毎年勉強会をしており、移植に関する最新情報をお聞きし、日々の生活に役立てています。

今まで散々心配をかけてきた父親を最近亡くし、田舎の家は母一人になりました。関西に住むことで実家も近くなり、心配な時はすぐに帰省することができます。これからも無理をせずに、少しずつ恩返しをしていきたいと思っています。そして、尊い命を大切にしていきたいと思っています。

ご寄附を頂戴しました。誠に有難うございました。臓器移植の普及・啓発推進のために大切に使用させていただきます。

○兵庫腎疾患対策協会様、○(一財)敬愛まちづくり財団、  
○はあとネット兵庫様、○平田一弘様、○イレブン・ミュージック様、

協議会の活動を進めるために会費の納入にご協力を！

当協議会の活動へのご支援を有難うございます。会費の納入をお願いします。会員の種別は以下の通りです。

正会員：2,000 円、賛助個人会員：1,000 円、賛助団体会員：10,000 円（一口）

郵便振替用紙に、必要記載事項(氏名、住所、電話番号、会員の種別)をご記入して下さい。

口座名：兵庫県臓器移植推進協議会 口座番号： 金融機関名：ゆうちょ銀行

MOTHER  
Movement  
Organ  
Transplant  
Hyogo  
Emergency  
Rescue

【お問い合わせ先】

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 5 丁目 1-21 福建会館ビル 6 階

NPO 法人兵庫県腎友会内 兵庫県臓器移植推進協議会

TEL : 078-371-4382 FAX : 078-371-8840

URL : <http://motherho.server-shared.com>

